

新技術の積極導入による作業の省力化・効率化で大規模経営を実現

有限会社 北井農産

石川県白山市



設立年月
構成員
基幹作物
特徴

平成16年4月

社長、妻、息子

大豆21.5ha(品種名:里のほほえみ)、水稻36.3ha、大麦4.0ha (R5)

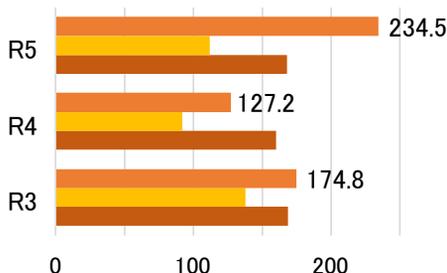
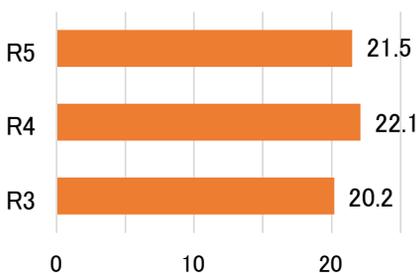
面積拡大に伴い、従来の高畝栽培に加えて狭畦栽培を導入し、省力化と収量安定化を図る。柏野地区農業を考える会の取りまとめ役を担い、可能な限り農地を荒らさないよう、集落を超えて団地化や生産調整に協力するなど、より効果的な農業を模索し、トップランナーとして地域農業をけん引。

大豆生産状況

面積 (ha)

単収 (kg/10a)

上位等級比率(%)



0%

■当該組織 ■県平均 ■全国平均

栽培上の特色

- 培土の遅れによる雑草繁茂を回避し、安定した収量を確保するため、狭畦栽培を導入。後発雑草の多いほ場では畝立同時播種による高畝栽培を行うなど、ほ場により播種方法を使い分ける。
- 令和5年は高温・少雨であったため、小まめな畝間かん水(5回)により、品質・収量の高位平準化を図った。また、十分なかん水量を確保するために団地を3ブロックに分け、計画的に通水を実施。
- 播種作業にはアップカッターロータリーを使用し、耕起、播種、施肥、整地、溝切り、除草剤散布を一工程で実施するほか、追肥・培土・除草を省略できる基肥一発肥料や狭畦栽培を取り入れることで、省力的かつ効率的な作業を実現。
- ほ場管理を効率化するため農地交換による団地化を行い、全ての大豆ほ場を1.1km圏内に集約。

経営上の特色

- 大規模ほ場で水稻・麦・大豆の2年3作体系によるブロックローテーションを確立し、経営を安定化。
- 離農者の大豆栽培の受け皿として、集落を超えた団地化調整による分散錯ほの解消や各種農作業の作業補完など、地域の担い手との連携を深め、地域農業の振興をけん引している。
- 柏野地区において、意欲的に大豆栽培に取り組む生産者間で情報交換を積極的に行い、地区全体で相互に高め合う関係性を構築することにより、石川県最大の大豆産地を維持。

販売・消費拡大への取組

- 加工が容易で加工販売業者から高評価な「里のほほえみ」を生産。県内外からの多くの要望に応えるため、安全・安心な品質を保つよう管理・実践している。
- JAの部会で大豆加工食品メーカーの視察に赴くなど、実需者ニーズに応じた大豆生産に努める。